つながろう
CO-OPアクション情報
2012年3月7日
第14号

◆いつか福島に帰ったときのために

福島県生協連
根本 喜代江氏

県外に避難している方との交流企画を行なったのは、福島県に住み続けている人との思いの格差を解消したいと思ったからです。県外に避難されている方々は、将来福島に帰った際、疎外感を覚えるのではないかなどと、不安を抱えていらっしゃいます。この交流をとおして、そういった不安を少しでも取り除けたらと思っています。

保養プロジェクトに参加した親子から、「生協の力ってすごいね」とよく言われます。ただ、生協の力だけではできないこともあります。地域のＮＰＯなど、多くの団体とつながり、もっと多様な視点で物事が見えてくればと願っています。

全国の生協からの募金で、私たちは安心して暮らしています。皆さま、これからも引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

県外に避難された方との交流も実施

～福島の子ども保養プロジェクト・初の交流企画～

寒だら汁を囲んで交流会。会場では、抽選大会も行なわれ、盛り上がっていました。

2月18・19日、「天童温泉 湯坊いちらく」（山形県）にて、「福島の子ども保養プロジェクト」（本誌10号参照）が開催されました。今回初の試みとして、福島から山形に避難している親子と、保養プロジェクト参加者、そして、生協共立社（本部・山形県鶴岡市）の組合員との交流企画が行なわれました。これは、山形県米沢市「避難者支援センター おいで」と生協共立社の共催企画で、庄内地方の郷土料理である寒だら汁を囲んで楽しい時間を過ごしました。生協共立社組織部長の伊藤稔さんは、「福島から山形に多くの方が避難されています。私たちも支援のあり方についてはまだ手探りの段階ではありますが、保養プロジェクトが始まったことで、だんだんと形が見えてきたように思います。今後もできることを随時やっていくつもりです」と話していました。

参加したお母さんの一人は、「境遇が同じ方と思いを共有できる場所があって、本当によかったです。寒だら汁もおいしくて、作り方を聞きたいと思いました」と笑顔で話していました。

全国へ「ありがとう」を届けよう

今回より、ツアーの参加者から協力団体へ、手描きのメッセージを贈る取り組みが始まりました。下書きに時間をかけたり、手形をなぞったり、家族の似顔絵を描いたりと、参加者の親子は、クレヨンやペンで思い思いに感謝の気持ちを表していました。

「とてもとてもうれしいです」、「また明日からもがんばります」などと書かれたメッセージ。

◆「忘れてないよ」と伝えたい

コープこうべ
組合員　末吉 繁美さん

震災から1年を経ても復興はまだまだですよね。何かできればと思って「地区交流先遣隊」の取り組みから参加しています。「被災地のことは忘れていませんよ。忘れませんよ」という気持ちが伝われればいいなと思います。

◆他人ごとではないから

コープこうべ
組合員　山本 康夫さん

私自身が父を阪神・淡路大震災で亡くしています。今回の東北の被災もとても他人ごとは思えませんでした。

何ができるかをを考えてきましたが、こういう機会でお役に立てればと思って、参加しました。

みやぎに絵手紙を贈るプロジェクトが始動

コープこうべ大阪北地区では、みやぎ生協県北ボランティアセンター(気仙沼市・南三陸町)と連携して「“みやぎ”とつながろう！ プロジェクト」を立ち上げ、2月27日に大阪府豊中市で絵手紙やメッセージカード作りを行ないました。これは、こうべの組合員と被災地の皆さんがボランティアセンターを介して絵手紙のやりとりをするプロジェクトです。

コープこうべ大阪北地区本部組織統括の中秀俊さんは、「昨年の『地区交流先遣隊』(本誌6号参照)や1月17日の震災イベントなど既に活動していましたが、今回のプロジェクトは、新たなキックオフとなります。今日も平日の昼間にもかかわらず、40人を超える組合員さんが参加してくださり、『被災地のことを忘れない』という皆さんの強い気持ちがうかがえます」と笑顔を見せていました。(左欄にて関連記事掲載)

プロジェクト立ち上げに尽力した矢田部佳子理事からあいさつがあった。

メッセージにかぶとをそえたりと、色鮮やかな絵手紙が作られた。

厳寒と強風にも負けず、支援活動実施

強風や雪にも負けず、ボランティアを行なうコープしがの役職員。

試験的に水揚げされたカキをむく生産者。今年のカキは、出来がいいという。

2月17日、コープしがの「ボランティアバス南三陸町支援隊」がバスで宮城県南三陸町に向かいました。20日までの日程で、18日には宮城県漁協志津川支所にてカキの生産再開の準備であるイカダ作りを手伝いました。ボランティアとして参加したコープしが専務理事の白石一夫氏は「私たちは宮城県内に産直産地を持っていませんでしたが、みやぎ生協さんに相談したところ、この志津川支所を紹介していただきました」と説明していました。

この日は作業で使う石が凍りつくほどの厳しい寒さでしたが、ボランティアは黙々と作業を行なっていました。参加した南草津センターの森下琢也さんは「『カキが商品になったら買ってください』と、心を込めたお勧めが組合員さんにできると思います。この経験を職場の仲間にも広めたいです」と話していました。

【一言メッセージ】

- 生協をどんどん利用することで、生協ができる支援活動も広がっていくと思います。(福島・Iさん)
- また地震が起きたら、と考えると、怖くて、今年はおひなさまを飾れませんでした。(宮城・Wさん)

◆リレー寄稿
今と未来の大学生を支援

大学生協東北事業連合
専務理事　三浦 貴司氏

全国のご支援に支えられて、ようやく震災から1年を迎えようとしています。温かい励ましに厚くお礼を申し上げます。

東北の大学生協では、全国大学生協連と協力しながら、親を亡くした学生や実家が全壊した学生、そして福島の原発被害を受けた学生など約2,100人に対して、お見舞金を贈る取り組みをしてまいりました。受け取った学生からは「大変だけど頑張って卒業します」等のお礼状が続々と寄せられています。

また、全国から大学生が集まり、沿岸部のボランティア活動も行なってきました。昨年4月から今年2月まで19回、のべ700人が参加しています。泥かきから始まった活動でしたが、今では小中高生の学習支援をしています。未来の大学生が進学をあきらめることなく学んでいけるよう、今後も支援を行なっていきたいと思っています。

2,000枚の「ひなまつりカード」に思いをこめて

いわて生協では、沿岸被災地仮設住宅で個人宅配を利用されている方へ「ひなまつりカード」を贈る取り組みを行ないました。

カードは、主に内陸部のいわて生協の組合員が制作したもので、作り方やサイズを紹介したチラシを宅配のカタログと一緒に配布し、カードの制作を呼び掛けました。その結果、寄せられたカードは約2,000枚。見本のものに加え、オリジナル作品も多数あり、一つひとつのカードに思いがこもっていることが分かります。最後に、カードにいわて生協からのメッセージをはさみこみ、2月20日から順次届けられました。また、22日に、大船渡市リアスホールで行なわれた「南こうせつ被災地支援コンサート」（主催いわて生協けせんコープ）の会場でもカードが配布され、お礼の電話をいただくほど喜ばれる取り組みとなりました。

材料は各自準備。十人十色のおひなさまが完成。

「南こうせつ被災地支援コンサート」。けせんコープ組合員が南さんと記念撮影。

＜ひと＞

「仲間が増えたことは、財産です」

みやぎ生協役員室広報担当
係長　本間賢二氏

本間さんは、みやぎ生協の広報担当として、この1年、みやぎ生協の復興支援活動を取材し、間近で見てきました。本間さんの取材は撮影だけでなく、一緒に作業も手伝うというスタイル。その理由を聞くと、

「せっかく被災地に入らせていただいているのに、取材だけでは申し訳ないですし、何か自分も力になれたらという気持ちがあります」

震災により、本間さんの実家がある気仙沼や、お母様の実家があり思い出深い町である志津川も被害を受け、本間さん自身も親戚やたくさんの友人・知人を亡くしました。

「最初は、将来像が見えずに不安ばかりでした。取材に行っても、答えてくださる方も少なくて。しかし、だんだん被災地の方の表情も明るくなってきて、今は復興のスピードが思った以上に早いことに驚いています。継続して取材に入っている志津川のカキ養殖施設では、その復興の様子を間近で見ることができ、感慨深いですね」

本間さんはこの1年を「助け合いを実感できた1年」と表現します。

「同じ目的で、同じ作業をする。そこでできた仲間たちとの縁を、これから先もずっと大切にしたいです」

本間さんの実家より臨む気仙沼の様子。（2012年2月13日撮影）

【一言メッセージ】

・ いろいろな人と交流することがストレスになる人もいます。外に出てくるのが嫌という人は、なぜそう思っているのかを知り、どういった形の支援ができるかを考えなければいけません。（福島・Sさん）

◆避難されている方へのバザーが好評

にぎわうバザー会場。

コープさっぽろの組合員組織である「コープ生活支援ボランティア“きずな”」は、札幌市内で避難生活をおくっていらっしゃる方への支援活動を行なっています。2月18日には、支援バザー第2弾を行ないました。被災された方へは、物品を無料で提供、それ以外の方は、お買い上げ金額が義援金となりました。バザーは、列ができるほど好評でした。

◆宮城県から感謝状をいただきました

みやぎ生協理事長　齋藤 昭子氏（左）、日本生協連 北海道・東北地連事務局長　住吉 登。

2月28日、宮城県よりみやぎ生協と日本生協連に感謝状の贈呈がありました。これは、宮城県への義援金送付をはじめ、多くの支援を生協が行なったことに対して贈られたものです。生協の各地での支援活動に対し、このように多くの自治体より感謝状が贈られています。

＜復興関連情報一覧＞

【岩手県】

いわて生協

●「忘れない・伝える・続ける・つながる」パネル展（アテルイ・コルザ）、タペストリー掲示（盛岡エリア6店舗、3/6～12）●「大震災復興祈念　がんばろう！岩手」セール（3/8～11）●盛岡西コープ主催で内陸避難者対象ふれあいサロン（3/9）●バスボランティア再開（3/17・24）

【宮城県】

みやぎ生協

●サンネット共同購入「がんばろうふくしま農産品応援ボックス」（2月3週～3月1週）●めぐみ野・志津川産カキ生産者へフォークリフトと資材、JA石巻のきゅうり・いちご生産者に淡水化装置を贈る生産者復興応援募金（2/20～）●クミココンサート（イズミティ21、3/6）●コープこうべ組合員と気仙沼市仮設住宅の文通が本格的にスタート●気仙沼市松川仮設住宅、東新城1丁目仮設住宅住民と雑巾を縫って贈る取り組み（雑巾にするタオルはコープこうべ提供）

【福島県】

コープふくしま

●「いきいきコープ復興応援デー」（3/11）●ガラスバッジと放射性物質摂取調査の測定結果を見ての学習会（福島地区3/12、郡山地区3/15）●心のケア講演会（3/23 10時～12時　会場/相双支部）

福島県生協連

●福島の子ども保養プロジェクト（毎週末開催）

【茨城県】

茨城県生協連

●放射能報道と消費者の課題講演会（2/21・3/5・6）

支援募集情報

○いわて生協：ふれあいサロンで使用する、お菓子（各地の名産品など）や、ぬりえ、色鉛筆など募集しています。連絡先は、いわて生協組織本部 中村　弥生さん（019-603-8299 月～土 9：00～18：00）まで。

○復興プロジェクトかけあしの会：被災された方の手作りで制作し、収入源となっている「あわびの貝アクセサリー」。この原料となる、あわびの貝が不足し、作業提供が難しくなっているため、あわびの貝を募集します。送り先→〒027-0038 岩手県宮古市小山田2-2-1　マリンコープDORA店長　菅原則夫さん（送料は、発送者ご負担でお願いいたします）

○みやぎ生協：ふれあい喫茶で使用する、お菓子（各地の名産品など）を募集しています。連絡先は、みやぎ生協・ボランティアセンター（022-218-5331）まで。

○食のみやぎ復興ネットワーク：「宮城県漁協志津川支所」に漁船・船外機・フォークリフト・わかめ収穫用コンテナを、「ＪＡいしのまき」に 海水淡水化装置を贈るため、上記物品、あるいは、支援金を募集。連絡先は、みやぎ生協 藤田 孝さん（022-772-6141）まで。

○福島県生協連：「福島の子ども保養プロジェクト」の①スタッフ、②4月以降の大型連休の保養受け入れ先募集。①は、1カ月単位で毎週末参加可能な方を。②のご提案は、企画（日程、募集対象者、募集人数、スケジュール、参加者負担額等）を明確にした上で、ご連絡ください。連絡先は、福島県生協連　根本喜代江さん（024-522-5334）まで。
（保養の企画、運営、費用は、主催者にご負担いただきます。ご了承ください）

○その他：首相官邸ＨＰにて「被災地の今」を伝える「私の復興便り」コーナー（http://www.kantei.go.jp/fukkou/tayori/）が開設され、震災を忘れないための取り組みとして、被災地や復興支援活動の様子を写真で紹介しています。読者の皆さまが撮った復興支援活動の様子などを、是非、投稿し、全国で共有ください。

東日本大震災復興支援 つながろう CO・OP アクション

つながろう　ＣＯ・ＯＰアクション情報
（隔週発行・次回３月21日発行予定）

発行　日本生活協同組合連合会（会員支援本部出版部）
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷３－２９－８　コーププラザ１１Ｆ
Tel：０３－５７７８－８１８３／Fax：０３－５７７８－８０５１
action@coop-book.jp

2012 国際協同組合年

【一言メッセージ】
・１年間は、何とか頑張れた人も多い。これからを、どう支えていくかが課題です。（岩手・Ｋさん）
・ボランティアも被災している中で、活動を進めていくことの難しさを感じます。（宮城・Ｈさん）